

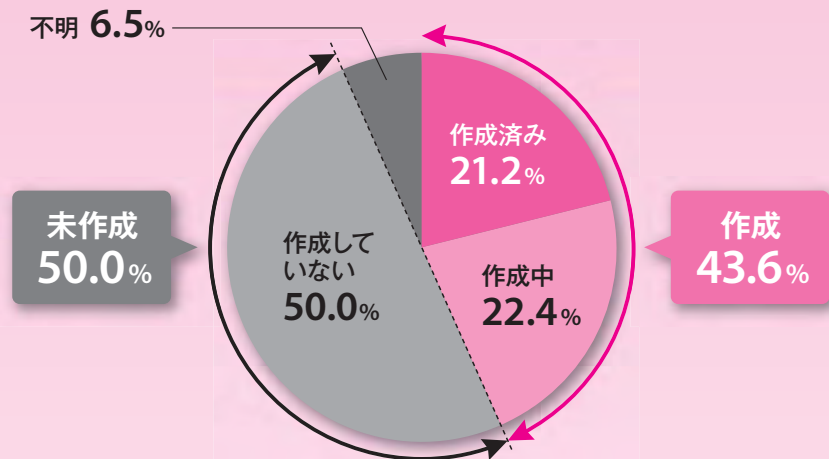
英語

指導と評価の 一体化を目指した CAN-DOリスト活用実践

4技能の総合的な育成や言語活動の充実、授業は英語で行うことを基本とするなど、新課程の英語では、グローバル時代の要請に応じたさまざまな改善が求められている。そこで、現場の教師が課題として感じているのが、4技能の目標設定と評価の方法、それに基づいた指導改善の仕方だ。今号では、指導と評価の一体化を行ってきた先進校の取り組みを通じて英語の新課程指導のあり方を考える。

CAN-DOリストの形での学習到達目標の設定状況

Q. CAN-DOリストの作成を行っていますか



出典/ベネッセコーポレーション 2013年度「新課程レポート Vol.1」コミュニケーションシート集計結果(7月22日集計分)、回答学校数 416校

学校事例 1

富山県立砺波高校

ライティングを軸に
英語による発信力を
段階的に評価

英語の学習に対する
生徒の意欲を注視

富山県立砺波高校は、文部科学省「英語力を強化する指導改善の取組」の指定を受けた2012年度から「発信型ライティング」の研究とそれを軸とした指導を実践している。

12年度に拠点校事務局長を務めた山本昭弘先生は、「生徒が卒業後、大学に入り、社会人となれば、英語によるプレゼンテーションをする機会があるでしょう。その時に重要になるのは、単なる英会話ではなく、自分の考えをきちんと述べ、相手を納得させられる話題を自ら発信できる力です。本校では、生徒や保護者

からの期待の大きい大学入試を突破する力にもつながる、ライティングに特化した発信力の強化を目指すことにしました」と研究テーマ決定の経緯を述べる。

同校は、「一から考えるといった無理はせず先進校の事例に学ぶ」とにかく動く」をスタンスに、教師が変わらなければ指導は改善されないという決意を英語科全体で共有し、研究に取り組んだ。

「発信型ライティング」への到達をゴールに、学年を縦軸、4技能の包括的指導を横軸としたCAN-DOリストを作成した。その内容は、先進校である福岡県立香住丘高校の取り組みを参考にして、1年生前期

をグレード1、1年生後期をグレード2というようにしてグレード6まで設定し、各グレードとも4技能それぞれに複数項目の評価基準を設けた。例えば、リスニングの11は「L11」、スピーキングの13は「S13」など、数字が大きいほど難易度が高くなる（P.22図1）。

各項目には、達成度を問う「Can-Do」、必要度を測る「Needs」の欄を設け、生徒は各4段階で自己評価を行う。生徒は「Can-Do」を重視するが、教師は「Needs」をより注視する。達成度よりも、英語に対する意欲が低い方が問題だと捉えるからだ。ネガティブな回答をした生徒には、成績の良し悪しにかかわらず、教科担任が注視し、授業で孤立しているようならグループの作り方を変えるなど、活動の仕方を工夫している。

12年度のCAN-DOリストは項目が多く、生徒が自己評価を行うのが難しかった。文言も教師目線の要素が強かったため、13年度分は、各グレードの評価項目を1年生は3項目、2・3年生は4項目にスリム化。生徒が各到達目標をイメージし



富山県立砺波高校
山本昭弘
やまもと・あきひろ
教職歴26年。同校に赴任して9年目。教務主任。



富山県立砺波高校
往蔵健
おうくら・けんじ
教職歴21年。同校に赴任して4年目。英語科主任。

富山県立砺波高校

◎2012年度に文部科学省「英語力を強化する指導改善の取組」の指定を受け、国際人として必要な「発信型ライティング」の指導について研究を行っている。

- ◎全日制／普通科／共学
- ◎1学年約200人
- ◎2013年度入試合格実績（現浪計）／国公立大は、北海道大、東北大、金沢大、富山大、名古屋大、京都大、大阪大などに162人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大、同志社大、立命館大、関西大などに延べ251人が合格。

やすいよう、例えば「英文を読み、辞書を用いて各レッスンの全体の概要をつかむことができる」には「コミュニケーション英語Iの教科書の「Comprehension」ができる」という文言を添えるなど、具体的な状態目標を明記した（P.22図1）。

このリストは、生徒が目標を常に意識できるよう、授業で使うファイルの1ページ目に添付させている。

はどう思うか」と尋ねて2文程度で答える問題を出した。採点では、「It makes me happy.」のような意味のない解答には加点しない、生き物の大切さが分かる具体的な解答を評価するなど、採点基準を統一した。

当初、教師は、生徒が英語による授業についてこられるかと不安を抱いていたが、生徒は予想以上に積極的に取り組み、心配はひとまず杞憂に終わった。ただ、中には、英語への苦手意識をぬぐい切れずに、英語学習への意欲が更に低くなった例もあったという。英語科主任の往職健先生は、「生徒が気軽に質問に来られるような環境を整えたり、英語の授業以外でも日常的に声を掛けたりすることが、これまで以上に大切になると思います」と語る。

今後とも生徒の到達度を見ながら、CAN-DO リストを見直していく。

「CAN-DO リストは完成して終わりではなく、日々の授業に取り入れるべきものであり、生徒の状況に応じて定期的に見直しが必要です。今後はデータの収集や定期考査による評価方法の改善なども図りたいと考えています」（山本先生）

学校事例 2

北海道滝川西高校

CAN-DO リストとシラバスの一体化で、生徒が自身の英語力を客観的に把握

SELHi の経験を踏まえ CAN-DO リストを改訂

北海道滝川西高校は2007年度にSELHiの指定を受け、活動中心のコミュニケーション型な授業、CAN-DO リストを活用した指導と評価の一体化の研究に3年間、取り組んできた。その成果を受け、12年度からは文部科学省「英語力を強化する指導改善の取組」を行う。研究の焦点はSELHiで培った英語教育の基盤を、新課程や5つの提言と具体的施策で提示された方向によりマッチした形に修正・具体化することだ。木村滋雄先生は次のように述べる。

「本校ではSELHiの指定校の時からCAN-DO リストを活用し、到達目標を意識した授業を実践してきました。目標設定・評価・指導改善は一連の流れで行うのが理想ですが、本校のそれまでのCAN-DO リストは項目が多く、必ずしも指導改善に結び付いていませんでした。13年度からは、CAN-DO リストの実効性を高めるために、シラバスと一体化させたものを新たに作成し、指導と評価の一体化を目指しています」

まず、生徒の実態、シラバスとの連動、具体的な評価方法を意識して、科目ごとに活動と時期を明記し、CAN-DO リストの項目を修正、整理、厳選（P.25図2）。更に、各活動が新課程で求められている評価の4観点の何に該当するのかを整理し、シラバス上に示した（P.25図3）。CAN-DO リストとシラバスを一体的に用いることで、評価の4観点と英語の4技能をバランスよく指導に組み込むことが出来た。

インプット→アウトプットの流れで英語運用力を高める

授業は基本的にほぼ全て英語で行われ、シラバスに基づいて同校が独自に作成したハンドアウト（配布用印刷物）に沿って進められる。

同校では、1年生の4～6月に「コミュニケーション英語基礎」（1単位）、7～3月に「コミュニケーション英語Ⅰ」（3単位）、2年生は「コミュニケーション英語Ⅱ」、3年生では「コミュニケーション英語Ⅲ」「英語表現Ⅰ」を配置。この履修進度に応じてCAN-DO リストのステップ1～4の各到達目標と到達期限を設定した。指標は英検の級とGTECのグレードで、卒業までに英検2級取得とGTECのグレード4（440～519）到達が目標だ。

各単元の授業の基本的なタスクの順序は次の通り。①帯活動—Small

Talkやトレーニング活動などを生徒の様子や授業内容に応じて選択↓
 ②背景知識—オーラルイントロダクション、短いプレゼンテーションなど
 ↓③理解活動—Listening活動からReading活動へ↓④取り込み活動 (Intake) — Outputに効果的につなげるための音読を適宜選択↓⑤表現活動 (Output) — リテラル、ディクトグロス、サマリーライティング、発表などを約2時間て実施し、Input → Intake → Output という流れの中で英語の運用力を高めていく。

ハンドアウトは、まずは1人の教師が作成する。それを担当教師間で検討し、その結果を受けて修正したものを生徒に配布する。教師全員が同じハンドアウトを使い指導すること、全ての生徒に一定の質の授業を保証している。13年度に赴任した畑野好美先生は、「ハンドアウトは、インプットからアウトプットの流れで英語の運用力を高める本校の指導法を具現化しているものでした。赴任したばかりの私もスムーズに授業が出来ましたし、授業は英語で行うことを基本とする新課程の指導を自信を持って進められました」と語る。

活動中心の授業にしてから宿題量は増やした。堀秀和先生はこう話す。「授業で出来ること・出来ないことを分けて考える必要があります。授業は、ペアワークなど学校でしか出来ないことを行う場です。一方、文法などの基礎事項は授業だけでは習得が難しいので、副教材などで家庭でも学習する必要があります。本校には家庭学習習慣が定着していない生徒が多いので、年度当初に年間

の家庭学習の内容と提出時期を一覧表にし、最初は強制的に提出させます。自分の力で副教材の内容が理解できたといった小さな成功体験を繰り返すことによって、自発的に学びに向かう生徒も少なくありません」

**自己評価をする場面を増やし
自分で弱点を把握させる**

CAN-DO リストと指導と評価の一体化の狙いは、教師が到達目標達成を目的に行った授業や定期考査などの指導を、自ら客観的に振り返り、1時間の授業の流れやタスクの実施方法、中・長期的な授業の横のつながりを見直すための授業改善のシステム (PDCA サイクル) を構築す

ること、生徒が自分の課題に自ら気づき、弱点克服に向けて学習方法を考える力や意欲を喚起することにある。つまり、教師と生徒が共にそれぞれの課題を分析し、共に改善に取り組むことで授業に一体感を生み出していくのである。

そのため、CAN-DO リストに基づいて授業や定期考査などで評価項目を設定し、生徒が自己評価を行う機会を多く設ける。例えば、授業冒頭には必ず「今日はfとvとthの発音が出来ようになることと、リスニングの内容が分かることが目標」などと、本時の目標を伝え、学習内容を意識させる。ハンドアウトでは、各活動に生徒が自己評価・他者評価を行う欄を設けた。各自が自身の達成度を測りながら授業は進む。

定期考査では、シラバスでの評価観点を各設問で明示する。生徒は、答案返却後に自分の足りないところを確認でき、教師の評価にかかる負担も軽減される。また、定期考査の結果を打ち込めば、観点別評価にリンクし、自動的に計算され結果がグラフ化される「観点別評価計算ワークシート」を表計算ソフトで作成、



北海道滝川西高校
木村滋雄
きむら・しげお
教職歴6年。同校に赴任して3年目。生徒会指導担当。



北海道滝川西高校
堀秀和
ほり・ひでかず
教職歴25年。同校に赴任して2年目。生徒指導担当。



北海道滝川西高校
畑野好美
はたの・よしみ
教職歴15年。同校に赴任して1年目。教務担当。

北海道滝川西高校

◎2007年度に文部科学省のスーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクールの「四」(E) 研究開発校。12年度に「英語力を強化する指導改善の取組」の指定を受け、コミュニケーションな指導と評価のあり方について研究している。

◎全日制/普通科・ビジネス科/共学
 ◎1学年約280人
 ◎2013年度入試合格実績(現浪計) / 国公立大は、小樽商科大、北海道教育大、室蘭工業大、弘前大などに17人が合格。私立大は、札幌学院大、北海道学園大、北海道医療大などに延べ116人が合格。

更にGTECや英検、模試のように、生徒自身も何が出来て、何が出来なかったのかをグラフで視覚的に把握できる個人票が配布可能なシステムを作成した。これを使って、生徒は自身の課題を自己評価し、各技能を

図2 普通科 CAN-DO リスト (新課程用)

Step1 [英検4級~3級 GTEC GRADE1 (0~299)~2(300~379)程度]
コミュニケーション英語基礎終了時まで

到達目標	・あらかじめ準備をして、自己紹介や、学校、町の紹介などについてのスピーチができる。
SPEAKING	・あらかじめ準備をして、自己紹介や、学校、町の紹介などについてのスピーチができる。
LISTENING	・初歩的な英語(実用英検3級リスニング第1部、第2部、教科書程度)であれば、短い会話やモノローグを聞き、概要を理解できる。
READING	・初歩的な英文(実用英検3級程度の短い手紙・Eメール・会話文等)であれば、初見で英文を読み、概要を理解できる。 ・教科書レベルの英文(コミュニケーション英語基礎)であれば正確かつ流暢に音読できる。
WRITING	・50語程度で自己紹介や家族、学校、町の紹介などのスピーチ原稿が書ける。

Step2 [英検3級程度、GTEC GRADE2 (300~379)程度] コミュニケーション英語 I 終了時まで

到達目標	・あらかじめ準備をしてスピーチができ、スピーチの内容についての質問に答えることができる。
SPEAKING	・身近なことに関しての簡単な質問に2文以上で答えることができる。 ・キーワードや絵を頼りにすれば、教科書の内容を話すことができる。
LISTENING	・あらかじめ準備をして、絵や写真などを用いた簡単なスピーチ(Show&Tell)をすることができる。 ・簡単な英語(実用英検3級リスニング第3部程度)であれば、比較的長い会話やモノローグを聞き、概要を理解できる。
READING	・簡単な英文(実用英検3級の説明文程度)であれば、初見で読み、概要を理解できる。 ・教科書レベルの英文(コミュニケーション英語I)であれば正確かつ流暢に音読できる。
WRITING	・3人以上のグループであれば、教科書レベルの英文を聞いて、その内容を再生できる。(ワークシートで評価) ・簡単なスピーチ(Show&Tell)の原稿を70語程度で書くことができる。 ・身近なことや教科書の内容について意見、感想などを70語程度の簡単な英語で書くことができる。

Step3-1 [英検3級~準2級程度、GTEC GRADE3 (380~439)程度]
コミュニケーション英語 II 終了時まで

到達目標	・既習のレッスンであれば、教科書の内容を英語で説明することができる。
SPEAKING	・既習のレッスンであれば、自分でメモを取った後、教科書の内容を英語で説明することができる。 ・あらかじめ準備をして、自分の関心のある話題とその理由についてスピーチすることができる。
LISTENING	・実用英検準2級リスニング第1部、第2部、教科書程度の短い会話やモノローグを聞き、概要を理解できる。 ・実用英検準2級、教科書程度であれば、比較的長い会話やモノローグを聞き、概要を理解できる。
READING	・実用英検準2級程度の短い手紙・Eメール・会話文等を初見で読み、概要を理解できる。 ・実用英検準2級程度の比較的長い説明文等を初見で読み、概要を理解できる。
WRITING	・ペアで協力すれば、教科書レベルの英文を聞いて、その内容を再生できる。(ワークシートで評価) ・70語程度でスピーチの原稿とその理由を書くことができる。 ・身近なことや教科書の内容について、70語程度で意見、感想などとその理由を書くことができる。

Step3-2 [英検準2級程度、GTEC GRADE3 (380~439)程度]
2年生後期終了までに(英会話終了時まで)*英会話を選択した生徒

到達目標	・既習のトピックについてであれば、ALTやJTEと3分間程度の会話を続けられる。
SPEAKING	・身近なトピックについてであれば、ALTやJTEと3分間会話を続けられる。
LISTENING	・日常生活の中でよくある場面についての英語のダイアログを聞き概要を理解できる。

Step4-1 [英検準2級~2級、GTEC GRADE4 (440~519)程度] コミュニケーション英語 III 終了時まで

到達目標	・与えられたトピックについて、自分の考えや感想を英語で話すことができる。
SPEAKING	・与えられたトピックについて、自分の考えや感想を話すことができる。
LISTENING	・実用英検2級第1部、第2部、教科書程度であれば、短い会話・モノローグを聞き、概要を理解できる。 ・実用英検2級、教科書程度であれば、比較的長い会話やモノローグを聞き、概要を理解できる。
READING	・実用英検2級程度の短い手紙・Eメール・会話文等を初見で読み、概要を理解できる。 ・実用英検2級程度の比較的長い説明文等を初見で読み、概要を理解できる。
WRITING	・与えられたトピックについて、自分の意見や感想を100語程度で書くことができる。

Step4-2 [英検準2級~2級、GTEC GRADE4 (440~519)程度] 英語表現 I 終了時まで

到達目標	・与えられたトピックについて、ディスカッションやマイクロディベートをすることができる。
SPEAKING	・与えられたトピックについて、賛成・反対とその理由を話すことができる。 ・与えられたトピックについて、JTEやALTの立論に対し、理由をつけて反ばくすることができる。
WRITING	・与えられたトピックについて、自分の考え(賛成・反対)とその理由を100語程度で書くことができる。 ・聞いた立論の内容の要点(賛成・反対、理由の数、理由の内容など)を再生できる。 ・与えられたトピックについて、JTEやALTの立論に対し、反論とその理由を100語程度の分量で書くことができる。

*学校資料を基に編集部で作成

伸ばすための目標を立てている。どうすれば英語がうまくなるか生徒は自ら学習方法を考える

自己評価を繰り返すことで、生徒は客観的に自分の英語力を分析できるようにになると、畑野先生は語る。「英語が苦手な生徒は『文法が分からないから嫌い』などと言うこと

が多いのですが、本校の生徒は『言いたいことがうまく伝えられないから苦手』と言います。自己評価でも、『初見の文章を読むのが苦手』というように、どうすればうまく英語を使えるようになるかという観点で勉強の仕方を考えています。そのような生徒が増えたのも、教材の工夫と日々の自己評価の積み重ねのおかげ

だと感じています」(畑野先生)

成果は着々と上がり、SEI指定校の時と比べても、生徒の英語力は大幅に伸びた。英検は13年6月段階で、2年生の8割が準2級を取得。数年前まで2人程だった2級取得者は3年生で10人程になった。大学入試でも、推薦入試で東京都の難関私立大学の合格を勝ち取る生徒も現れた。

図3 「コミュニケーション英語I」のシラバス(抜粋)

月	単元名	学習内容	評価規準	評価の観点				評価方法
				①	②	③	④	
6	LESSON1 Do You Understand This Emotion?	メールで使われる顔文字の意味を学ぶ。 ・時制、進行形、接続詞、助動詞	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。 簡単な英文(実用英検3級の説明文程度)であれば、初見で読み、概要を理解できる。 英語の学習を通して言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解している。	●		R		初見リーディングテスト(後日)
6	LESSON4 Sports over Nationality?	スポーツと国籍の関わりについて学び、自分の好きなこと、興味についての英文を書く。 ・to不定詞、It is ~ to不定詞	身近なことや教科書の内容について意見、感想などを70語程度の簡単な英語で書くことができる。 身近なことや教科書の内容について意見、感想などを70語程度の簡単な英語で書くことができる。 英語の学習を通して言語やその運用についての知識を身につけるとともに、その背景にある文化などを理解している。	W		W		ライティング課題テスト(後日)
7	LESSON3	動物が人を助けるストーリーを学ぶ。	キーワードや絵を頼りにして、教科書の内容を話そうとしている。					ロールプレイ

*学校資料から抜粋して編集部で作成

「本校の生徒は高校入試の得点率は50%前後で、成績上位層ばかりが入学するわけではありません。そうした生徒でも、CAN-DO リストやハンドアウトを工夫すれば、英語による活動中心の授業は可能なことを示せたと思っています」(木村先生)

今後もCAN-DO リストによる評価を基に指導改善を進めていく。